

大島分場トピック

No. 296

(旧大島分場だより)

平成 15 年 10 月 14 日

東京都水産試験場 大島分場発行
〒 100-0212 東京都大島町波浮港 18
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383
ホームページ <http://www.fish.metro.tokyo.jp>

三宅の海は今！

泥流の影響は依然続くものの、一部の資源には回復の兆しが

平成 12 年の大噴火後 3 年目に当たる今年の 8 月と 9 月に、噴火で影響を受けた 12 地点の漁場で潜水調査を実施しました (図 1)。陸上からの土砂の流入は依然続いており、多くの磯で岩上への泥等の堆積が確認されました。また、テングサは、種類により生育状況に差がみられるものの、浅場に分布するオオブサは草質、草丈ともに良好でした。一方、貝類では、これまでの調査の中で最も多くのサザエが採集されました。フクトコブシも天然貝、放流貝とも採集され肉付きも良好でした。今回の調査により、陸上からの土砂の流入の影響が確認され、漁場環境は依然不安定な状況ですが、一部の資源では、回復の兆しが認められました。

依然続く陸上からの土砂の影響

8 月の局地的な豪雨による影響と思われる土砂の堆積が多くで認められ、特にアラキ、ユノハマ、ウノクソの岸側では茶色く濁り、海面の泡立ちもみられました。これらの地域では、当分の間、陸上からの土砂流入の影響が心配されます。

生育状況に差がみられたテングサ類

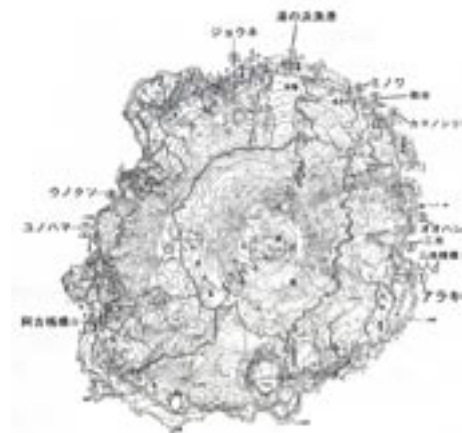
マクサとオバクサは、草丈が短く、又マ付き、ハナ付き、石灰藻付きのものが多く、品質は良くありませんでした。砲台からミノワの波打ち際で確認されたオオブサは、波浪等の影響を受けやすいためか付着物も少なく、草質、草丈ともに良好でした (写真 1)。

また、アントクメは、アラキの沖側、オオハシで確認されましたが、葉状部は切れ落ちて付着部のみのものが殆どでした。

若齢貝も多くみられたサザエ

調査地点 12 点中 7 地点でサザエが確認され、特にアラキの岸側では全採集個体の半数近くの 29 個体を採集した。また、今回の調査では、殻高 5 cm 前後の小型個体も多く確認されました (写真 2)。

一方、フクトコブシは、6 地点で確認され、アラキの岸側と三池では放流貝の成貝も採集されました。



平成15年度第2・3回三宅島災害調査実施図
分定調査ポイント設置地点

図 1 調査位置



写真 1 テングサ (オオブサ) の群生



写真 2 三宅島のサザエ